

人類生態学教室年報

2005-2006

**Biennial Report of Activities in Department of Human Ecology**

March, 2007

東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻  
人類生態学教室

Department of Human Ecology, School of International Health,  
Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

## 目次 Contents

教育活動 (Educational Activities)		1
学部	Lectures and Exercises/Practices for Undergraduate Students	
大学院	Lectures and Exercises/Practices for Graduate Students	
卒業論文	Graduation Theses	
修士論文	Master's Theses	
博士論文	Doctoral Dissertations	
研究業績 (Research Activities)		12
原著論文	Original Articles	
単行本	Books and Contributions to Book	
総説・資料・他	Reviews and Other Reports	
学会発表	Presentations in Scientific Meetings	
国際的な活動 (International Activities)		21
国際研究プロジェクト	International Research Projects	
人類生態学セミナー (Seminars on Human Ecology)		24
人類生態学研究会 (Meetings on Human Ecology)		25
教室員一覧 (Staff, Students and Visiting Researchers)		26

**教育活動 Educational Activities**

**学 部 Lectures and Exercises/Practices for Undergraduate Students**

☆講 義

解剖学（必修－2年後期 I・II：2単位）

2005年10月－2006年1月 担当：坂井建雄（順天堂大学医学部）

火曜日：10:40-12:10

平成 17 年

10月18日	人体とはどのようなものか
10月25日	消化器
11月1日	呼吸器
11月8日	泌尿器
11月15日	生殖器
11月22日	循環系
11月29日	神経系
12月6日	骨格と筋
12月13日	上肢
12月20日	下肢

平成 18 年

1月10日	頭部
1月17日	個体発生と系統発生
1月24日	人体を作る素材

2006年10月－2007年1月 担当：坂井建雄（順天堂大学医学部）

平成 18 年

10月24日	人体はどのようなものか
10月31日	消化器
11月7日	呼吸器・泌尿器
11月14日	生殖器
11月21日	循環系
11月28日	神経系
12月5日	骨格と筋
12月12日	上肢
12月19日	下肢

平成 19 年

1月9日	頭部
1月16日	個体発生と系統発生
1月23日	人体を知る解剖学

生理学（必修－2年後期Ⅱ：2単位）

2005年12月－2006年1月 担当：佐々木誠一（茨城県立医療大学）

月曜日：13:00-16:10

平成17年

12月5日 生理学の基礎、呼吸  
12月12日 血液と循環  
12月19日 消化と吸収、腎臓の機能

平成18年

1月16日 内分泌、生殖  
1月23日 神経、シナプスと筋  
1月30日 感覚、神経系

2006年12月－2007年1月 担当：佐々木誠一（茨城県立医療大学）

平成18年

12月4日 生理学の基礎、呼吸  
12月11日 血液と循環  
12月18日 消化と吸収、腎臓の機能

平成19年

1月15日 内分泌、生殖  
1月22日 神経、シナプスと筋  
1月29日 神経系、感覚

薬理・毒性学（必修－3年前期Ⅰ：2単位）

2005年4月－2005年5月

火曜日：9:00-12:10

平成17年

4月5日 薬理学（1） 飯野正光（薬理Ⅰ）  
4月12日 薬理学（2） 三品昌美（薬理Ⅱ）  
4月19日 毒性学（1） 遠山千春  
(疾患生命工学センター)  
4月26日 毒性学（2） 渡辺知保  
5月10日 臨床薬物動態学 鈴木洋史（薬剤部）  
5月17日 臨床試験について（特に循環器領域）  
山崎 力（臨床バイオインフォマティクス研究ユニット）  
林 同文（22世紀医療センター・健康医科学創造講座）  
5月24日 薬のライフサイクルと調査研究  
佐藤嗣道（薬剤疫学）  
久保田潔（薬剤疫学）

2006年4月－2006年5月

平成18年

4月4日 薬理学（1） 飯野正光（薬理Ⅰ）

4月11日	臨床薬物動態学	鈴木洋史 (薬剤部) 伊藤晃成 (薬剤部)
4月18日	薬理学 (2)	三品昌美 (薬理Ⅱ)
4月25日	毒性学 (1)	遠山千春 (疾患生命工学センター)
5月9日	毒性学 (2)	渡辺知保
5月16日	薬のライフサイクルと調査研究	佐藤嗣道 (薬剤疫学) 久保田潔 (薬剤疫学)
5月23日	循環器・生活習慣病領域の臨床試験について	山崎 力 (臨床バイオインフォマティクス研究ユニット) 林 同文 (22世紀医療センター・健康医科学創造講座)

人類生態学 (必修-3年前期Ⅱ : 2単位)

2005年5月-2005年7月

火曜日 : 9:00-12:10

平成 17 年

5月31日	生態系のなかの人間	渡辺知保
6月7日	人間の生存と健康 (1)	山内太郎
6月14日	人間の生存と健康 (2)	渡辺知保
6月21日	人口からみた人間	渡辺知保・山内太郎
6月28日	環境問題と人間	渡辺知保
7月5日	人類生態学の研究 (1)	教員全員
7月12日	人類生態学の研究 (2)	教員全員

2006年5月-2006年7月

平成 18 年

5月30日	概論 (1) 栄養適応/生理適応・環境をつくる人間	渡辺知保
6月6日	概論 (2) 行動適応・文化的適応	梅崎昌裕
6月13日	グループワーク	教員全員
6月20日	人類生態学の最近の話題 (1)	渡辺知保
6月27日	人類生態学の最近の話題 (2)	梅崎昌裕
7月4日	人類生態学の最近の話題 (3)	山内太郎・清水 華
7月11日	グループワークの発表と全体討論	教員全員

環境保健学（選択－3年後期 I：2単位）

2005年10月－2005年12月

金曜日：9:00-12:10

平成 17 年

- |        |  |
|--------|--|
| 10月21日 | 環境保健学とはどんな学問か？<br>渡辺知保   |
| 10月28日 | 大気とその汚染<br>新田裕史<br>(国立環境研究所)   |
| 11月4日  | 環境有害因子の毒性発現メカニズムと健康リスク評価<br>遠山千春<br>(疾患生命工学センター)   |
| 11月11日 | 人と自然の共生からみた地域生態系健康論<br>本郷哲郎<br>(山梨県環境科学研究所)  |
| 11月18日 | 9:00-10:30 地理情報システム (GIS)・衛星リモートセンシングによる環境評価<br>梅崎昌裕<br>10:40-12:10 電磁波の生体影響<br>上野照剛 (生体情報学) |
| 11月25日 | 環境リスクアセスメント／疾病適応論：マラリアを題材にして<br>中澤 港 (群馬大学)  |
| 12月2日  | 次世代影響とその評価法／感受性の個体差はなぜ生ずるか？<br>渡辺知保  |

2006年10月－2006年12月

平成 18 年

- |        |   |
|--------|---|
| 10月20日 | 環境保健学とはどんな学問か？<br>次世代影響とその評価法／感受性の個体差はなぜ生ずるか？<br>渡辺知保 |
| 10月27日 | 環境有害因子の毒性発現メカニズムと健康リスク評価<br>大迫誠一郎<br>(疾患生命工学センター)     |
| 11月10日 | 大気とその汚染<br>新田裕史<br>(国立環境研究所)                          |
| 11月17日 | 環境リスクアセスメント／疾病適応論：マラリアを題材にして                          |

- 11月24日 中澤 港 (群馬大学)  
人と自然の共生からみた地域生態系健康論  
本郷哲郎  
(山梨県環境科学研究所)
- 12月1日 鉛曝露とその健康影響  
吉永 淳 (新・環境学)

人口学 (選択－3年後期Ⅱ：1単位)

2005年12月－2006年1月

月曜日：16:20-17:50

平成 17 年

- 12月5日 人口学総論、人口構造の分析  
梅崎昌裕
- 12月12日 出生／死亡の分析 梅崎昌裕
- 12月19日 人類生態学と人口学 (1) 病気と人口  
中澤 港 (群馬大学)

平成 18 年

- 1月16日 人類生態学と人口学 (2) インドネシア農村部における出生力と子どもの死亡  
関山牧子  
(サステイナビリティ学連携研究機構)
- 1月23日 人類生態学と人口学 (3) イスラム社会の出生力研究  
末吉秀二  
(吉備国際大学)
- 1月30日 人類生態学と人口学 (4) 途上国の人口問題  
梅崎昌裕

2006年12月－2007年1月

平成 18 年

- 12月4日 人口学概論、人口構造指標の計算  
梅崎昌裕
- 12月11日 出生指標の計算 梅崎昌裕
- 12月18日 死亡指標の計算 梅崎昌裕

平成 19 年

- 1月15日 アラブ・イスラム社会の出生規範：ヨルダンの事例  
末吉秀二  
(吉備国際大学)
- 1月22日 出生力と健康：インドネシアにおけるリプロダクティブヘルス  
関山牧子

(サステナビリティ学連携研究機構)

1月29日

数理モデルによる人口分析

中澤 港 (群馬大学)

環境工学・人間工学 (選択－4年前期 I : 2単位)

2005年4月－2005年5月

木曜日 : 9:00-12:10

平成 17 年

4月7日

ユビキタス情報機器とその環境センシングへの  
応用

保坂 寛 (新・環境学)

4月14日

工学的視点に立った室内環境

熊谷一清 (新・環境学)

4月21日

上水道・下水道および親水空間における病原微  
生物

片山浩之 (工・都市工学)

4月28日

土壌・地下水汚染とバイオレメディエーション

栗栖 太

(水環境制御研究センター)

5月12日

有害金属類による汚染の浄化

福士謙介

(環境安全研究センター)

5月19日

医用工学 I : 生体計測と生体制御

磯山 隆

(医用生体工学)

5月26日

医用工学 II : 宇宙環境

磯山 隆

(医用生体工学)

2006年4月－2006年5月

平成 18 年

4月6日

エコロジカルに探る心身の健康

山本義春 (教・健康教育)

4月13日

空間解析と空間心理工学

浅見泰司

(空間情報科学研究センター)

4月20日

ナノテクノロジーが拓く未来医療

片岡一則

(疾患生命工学センター)

4月27日

有害物質の管理

福士謙介

(環境安全研究センター)

5月13日

土壌・地下水汚染とバイオレメディエーション

栗栖 太  
(水環境制御研究センター)

- 5月18日 病原微生物と上下水道  
片山浩之(工・都市工学)
- 5月25日 医用工学：生体計測と生体制御  
磯山 隆  
(医用生体工学)

国際保健学（選択－4年前期Ⅰ：2単位）

2005年4月－2005年5月

木曜日：13:00-16:10

平成17年

- 4月7日 国際母子保健学 牛島廣治(発達医科学)
- 4月14日 環境と健康 渡辺知保
- 4月21日 熱帯感染症の生物学 北 潔(生物医化学)
- 4月28日 感染症とヒトの遺伝要因  
徳永勝士(人類遺伝学)
- 5月12日 平和・人権・国際保健  
若井 晋  
(国際地域保健学)
- 5月19日 国際社会における予防接種計画と根絶対策  
黒岩宙司  
(国際保健計画学)
- 5月26日 発展途上国のヘルスプロモーション  
神馬征峰  
(国際地域保健学)

国際保健学（選択－4年前期Ⅰ：2単位）

2006年4月－2006年5月

木曜日：13:00-16:10

平成18年

- 4月6日 国際保健計画とワクチンで予防可能な疾患（天然痘、ポリオ、麻疹など）  
黒岩宙司  
(国際保健計画学)
- 4月13日 発展途上国におけるヘルスプロモーション  
神馬征峰  
(国際地域保健学)
- 4月20日 感染症とヒトの遺伝要因  
徳永勝士(人類遺伝学)  
大橋 順(人類遺伝学)
- 4月27日 フィールドワーク論 梅崎昌裕
- 5月11日 途上国における環境問題と人類生態学

5月18日	国際母子保健学	渡辺知保 牛島廣治 (発達医科学)
5月25日	熱帯感染症の生物学	北 潔 (生物医化学)

☆実 習

2005年6月

環境保健学実習 (選択-4年前期Ⅱ : 2単位)

2005年10月

保健学実験・検査法実習 : 「環境化学」 (必修-3年前期Ⅲ : 3単位)

2006年10月

保健学実験・検査法実習 : 「環境化学」 (必修-3年前期Ⅲ : 3単位)

☆原書講読

2005年5月-2005年7月

山内太郎・清水華

テキスト : Ulijaszek and Strickland (1993) Nutritional studies in biological anthropology. In Lasker, G.W. and Mascie-Taylor, C.G.N. (eds.), *Research strategies in human biology: field and survey studies*. Cambridge: Cambridge University Press, pp. 108-139.

Nordberg, M. and Nordberg, G.F. (2002) Cadmium. In Sarkar, B. (ed.), *Heavy Metals in the environment*. Marcel Dekker, pp. 231-269.

大学院

Lectures and Exercises/Practices for Graduate Students

Human Ecology I (人類生態学特論 I)

May to June, 2005

Introduction to human ecology

C. Watanabe

Population Biology

M. Umezaki

Department of International Health,  
Tokyo Medical and Dental University

Journal club

Graduate students

May to June, 2006

Introduction: human ecology and environmental issues

C. Watanabe

Geographies of social inequality in health and well-being

Prof. Daniel Dorling

Department of Human Geography,  
University of Sheffield, UK

Dr. Dimitris Ballas

Department of Geography,  
University of Sheffield, UK

Methodologies of data collection in the field

M. Umezaki

Chemicals and human health/survival

C. Watanabe

Long-term change of adaptation

M. Umezaki

Nutrition–ecological aspect

C. Watanabe

Human Ecology II (人類生態学特論 II)

November to December, 2005

Heavy metals in the environment

S. Himeno

Tokushima Bunri University

Environmental lead (Pb) – exposure and health consequence: emphasizing historical and geographical aspects in Japan

J. Yoshinaga

Graduate School of Frontier Sciences

Topics related with nutrition, modernization, and health

T. Inaoka

Saga University

Topics related with ecology of chimpanzee or other non-human primates, and conservation of wild animals in Africa

G. Yamakoshi

Kyoto University

November to December, 2006

Biosocial meanings of health in developing countries

T. Inaoka

Saga University

Environmental lead (Pb) – exposure and health consequence: emphasizing historical and geographical aspects in Japan

J. Yoshinaga  
Graduate School of Frontier Sciences  
Chimpanzees as our “neighbors”: wildlife conservation practices in West  
African socio-cultural landscapes

G. Yamakoshi  
Kyoto University  
S. Himeno  
Tokushima Bunri University

Essentiality and toxicity of metals

ASNETリレー講義「日本・アジア学講座」  
アジアにおける人口問題と人々の生存・健康  
2006年10月－2007年1月  
月曜日：14:40-16:10  
平成18年

10月16日	アジアの環境－健康問題（1）：概観／水 渡辺知保
10月23日	アジアの環境－健康問題（2）：大気 渡辺知保
10月30日	人口を経済学的に考える 石見 徹（経・現代経済）
11月6日	食糧と持続可能性 石見 徹（経・現代経済）
11月13日	アジアの環境－健康問題（3）：人口－生業－環境 渡辺知保
11月20日	島嶼の人口支持力（1）：生態学的側面から 古澤拓郎 （国際連携本部ASNET推進室）
11月27日	島嶼の人口支持力（2）：文化的側面から 古澤拓郎 （国際連携本部ASNET推進室）
12月4日	アジアで話題となっている感染症 牛島廣治（発達医科学）
12月11日	アジアの少数民族の母子保健 牛島廣治（発達医科学）
12月18日	集団の適応指標（1）：出生 梅崎昌裕
平成19年	
1月15日	集団の適応指標（2）：死亡 梅崎昌裕
1月22日	集団の適応指標（3）：移動 梅崎昌裕

**卒業論文      Graduation Theses**

2005 年度

大野正智

マウスへの周生期低濃度のカドミウム曝露が出生仔の加齢後の行動神経機能に及ぼす影響

黒木 匡

離島に居住する男性高齢者の身体活動量の評価—連続7日間の加速度モニタリング—

**修士論文      Master's Theses**

2005 年度

Linda Dewanti

Blood lead level and iron level of male workers during Ramadan fasting at vehicle terminal in a city of Eastern Java, Indonesia

2006 年度

Rajendra Prasad Parajuli

Dietary intake, geo-helminthiasis, socio-economic status and their relation with nutritional status of *Mushar* in lowland Terai, Nepal

**博士論文      Doctoral Dissertations**

2005 年度

石飛裕美

Developmental toxicity of perinatal low-dose exposure to cadmium in mice: with special reference to metal concentrations, brain gene expressions and reproductive functions

周   敏

Longitudinal analysis of growth pattern and related ecological factors in rural schoolchildren in the Dongting Lake region, South China

蒋   宏偉

Inter-household variation in adoption of cash cropping and its effects on labor, diet and nutritional status: a study in a Li hamlet in Hainan island, China

2006 年度

福山祥子

Nutritional ecology of Tongans: study on food intake and physical activity pattern in a population with high prevalence of obesity

竹内昌平

*Schistosoma japonicum* infection and time allocation studies of the behaviors associated with water contact in a rural village, the Dongting Lake region, China

**研究業績      Research Activities**

**原著論文      Original Articles**

Andoh, S.Y., Umezaki, M., Nakamura, K., Kizuki, M. and Takano, T. (2006) Correlation between indebtedness, HIV/AIDS, and political status and mortalities in African countries. *Public Health*, 120: 624-633.

Andoh, S.Y., Umezaki, M., Nakamura, K., Kizuki, M. and Takano, T. (2007) Association of household demographic variables with child mortality in Cote d'Ivoire. *Journal of biosocial Science*, 39: 257-265.

Beekley, M.D., Abe, T., Kondo, M., Midorikawa, T. and Yamauchi, T. (2006) Comparison of maximum aerobic capacity and body composition of elite Sumo wrestlers to elite athletes in combat and other sports. *Journal of Sports Science & Medicine*, Supple: 13-20.

Dewanti, L., Watanabe, C., Sulistiawati and Ohtsuka, R. (2006) Unexpected changes in blood pressure and hematological parameters among fasting and nonfasting workers during Ramadan in Indonesia. *European Journal of Clinical Nutrition*, 60: 877-881.

藤巻可弓、吉永淳、渡辺知保、芹澤滋子、白石寛明、水本賀文 (2006) 3種の尿中代謝産物分析に基づく日本人妊婦のフタル酸ジエチルヘキシル (DEHP) 摂取量の推定. *日本衛生学雑誌*, 61: 340-347.

Fukuda, Y., Umezaki, M., Nakamura, K., Takano, T. (2005) Variations in societal characteristics of spatial disease clusters: examples of colon, lung and breast cancer in Japan. *International Journal of Health Geographics*, 4: 16. (online journal)

Fukuyama, S., Inaoka, T., Matsumura, Y., Yamauchi, T., Natsuhara, K., Kimura, R. and Ohtsuka, R. (2005) Anthropometry of 5-19-year-old Tongan children with special interest in the high prevalence of obesity among adolescent girls. *Annals of Human Biology*, 32(6): 714-723.

Fukuyama, S., Nakazawa, M. and Ohtsuka, R. (2005) Simulating the spread of Chlamydia trachomatis infection with an individual-based stochastic model: Evaluation of the effects of approval of low-dose oral contraceptive pill in Japan. *Japanese Journal of Health and Human Ecology* (民族衛生), 71(4): 157-167.

Ishitobi, H. and Watanabe, C. (2005) Effects of low-dose perinatal cadmium exposure on tissue zinc and copper concentrations in neonatal mice and on the reproductive development of female offspring. *Toxicology Letters*, 159(1): 38-46.

- 蒋宏伟 (2005) 经济作物和克服贫困的尝试. 广西民族学院学报, 27(1): 44-53.
- Jiang, H., Umezaki, M. and Ohtsuka, R. (2006) Inter-household variation in adoption of cash cropping and its effects on labor and dietary patterns: a study in a Li hamlet in Hainan island, China. *Anthropological Science*, 114(2): 165-173.
- Maharjan, M., Watanabe, C., Ahmad, S. and Ohtsuka, R. (2005) Arsenic contamination in drinking water and skin manifestations in lowland Nepal: The first community-based survey. *American Journal of Tropical Medicine and Hygiene*, 73:477-479.
- Maharjan, M., Roshan, R., Shrestha, A., Ahmad, S.K.A., Watanabe, C. and Ohtsuka, R. (2007) Prevalence of Arsenicosis in Terai, Nepal. *Journal of Health Population and Nutrition*, 24(2). (in press)
- Miyazaki, K., Watanabe, C., Mori, K., Yoshida, K. and Ohtsuka, R. (2005) The effects of gestational arsenic exposure and dietary selenium deficiency on selenium and selenoenzymes in maternal and fetal tissues in mice. *Toxicology*, 208: 357-365.
- Mori, K., Yoshida, K., Hoshikawa, S., Ito, S., Yoshida, M., Satoh, M., Watanabe, C. (2006) Effects of perinatal exposure to low doses of cadmium or methylmercury on thyroid hormone metabolism in metallothionein-deficient mouse neonates. *Toxicology*, 228: 77-84.
- Mori, K., Yoshida, K., Tani, J.I., Hoshikawa, S., Ito, S., Watanabe, C. (2006) Methylmercury inhibits type II 5'-deiodinase activity in NB41A3 neuroblastoma cells. *Toxicology Letters*, 161: 96-101.
- Ohashi, J., Naka, I., Kimura, R., Tokunaga, K., Yamauchi, T., Natsuhara, K., Furusawa, T., Yamamoto, R., Nakazawa, M., Ishida, T., Ohtsuka, R. (2006) Polymorphisms in the ABO blood group gene in three populations in New Georgia Islands, Solomon Islands. *Journal of Human Genetics*, 51(5): 407-411.
- Perikesit, Salim, H., Triharyanto, E., Gunawan, B., Sunardi, Abdoellah, O.S. and Ohtsuka, R. (2005) Multi-source water pollution in the Upper Citarum watershed, with special reference to its spatiotemporal variation. *Environmental Sciences*, 12(3): 121-131.
- Shimizu, H., Tamam, M., Soemantri, A.G. and Ishida, T. (2005) Glucose-6-phosphate dehydrogenase deficiency and Southeast Asian ovalocytosis in asymptomatic *Plasmodium* carriers in Sumba island, Indonesia. *Journal of Human Genetics*, 50(8): 420-424.
- Sudo, N., Sekiyama, M., Maharjan, M. and Ohtsuka, R. (2006) Gender differences in dietary intake among adults of Hindu communities in lowland Nepal: assessment of portion sizes and food consumption frequencies. *European Journal of Clinical Nutrition*, 60: 469-477.

- Takeuchi, S., Li, Y., He, Y., Zhou, H., Moji, K., Ohtsuka, R. and Watanabe, C. (2006) Behaviors associated with water contact and *Schistosoma japonicum* infection in a rural village, the Dongting Lake region, China. *Tropical Medicine and Health*, 34(3):117-123.
- Tanaka, M., Umezaki, M., Natsuhara, K., Yamauchi, T., Inaoka, T., Hongo, T., Nagano, M., Watanabe, C. and Ohtsuka, R. (2005) No difference in serum leptin concentrations between urban-dwelling Austronesians and Non-Austronesians in Papua New Guinea. *American Journal of Human Biology*, 17(6): 696-703.
- 梅崎昌裕 (2005) 与环境保全并存的生业的可能性：水满村の事例。广西民族学院学报, 27(1): 9-18.
- Umezaki, M., Sengebau-Kinzio, J.M., Ridep, E., Sikyang, B., Ngiruchelbad, D., Tadao, R., Watanabe, M., Nakamura, K. and Takano, T. (2007) Microbiological safety of ready-to-eat foods in Republic of Palau. *Pacific Health Dialog*, 12. (in press)
- Walker, R., Hill, K., Gurven, M., Migliano, A., Chagnon, N., Djurovic, G., Hames, R., Hurtado, A.M., Oliver, W.J., De, Souza, R., Valeggia, C., Yamauchi, T. (2006) Growth rates, developmental markers, and life histories in 21 small-scale societies. *American Journal of Human Biology*, 18: 295-311.
- 山内太郎、萩原潤 (2005) 高齢者の理想的な身体活動量とフィットネス—健康長寿漁村の事例から考える—。デサントスポーツ科学、26: 23-32.
- Yamauchi, T. and Umezaki, M. (2005) Rural-urban migration and changing physical activity among Papua New Guinea Highlanders from the perspective of energy expenditure and time use. *Environmental Sciences*, 12: 155-166.
- Yamauchi, T., Kim, S.N., Lu, Z., Ichimaru, N., Maekawa, R., Natsuhara, K., Ohtsuka, R., Zhou, H., Yokoyama, S., Yu, W., He, M., Kim, S.H., Ishii, M. (2007) Age and gender differences in the physical activity patterns of urban school children in Korea and China. *Journal of Physiological Anthropology*, 26(2). (in press)
- Yamauchi, T., Midorikawa, T., Hagihara, J., Sasaki, K. (2007) Quality of life, nutritional status, physical activity, and their interrelationships of elderly living on an underpopulated island in Japan. *Geriatrics and Gerontology International*, 7: 26-33.
- Yoshida, M., Watanabe, C., Horie, K., Satoh, M., Sawada, M. and Shimada, A. (2005) Neurobehavioral changes in metallothionein-null mice prenatally exposed to mercury vapor. *Toxicology Letters*, 155: 361-368.
- Yoshida, M., Watanabe, C., Kishimoto, M., Yasutake, A., M., S., Sawada, M., et al. (2006) Behavioral changes in metallothionein-null mice after the cessation of long-term, low-level exposure to mercury vapor. *Toxicology Letters*, 161(3): 210-218.

- Zhou, H., He, Y. and Ohtsuka, R. (2005) Sex difference in malnourished status of Chinese children due to schistosomiasis infection and inadequate dietary intake. *Environmental Sciences*, 12: 145-153.
- Zhou, H., Ohtsuka, R., He, Y., Yuan, L., Yamauchi, T. and Sleight, A.C. (2005) Impact of parasitic infections and dietary intake on child growth in the schistosomiasis-endemic Dongting Lake Region, China. *American Journal of Tropical Medicine and Hygiene*, 72: 534-539.
- Zhou, H., Yamauchi, T., Natsuhara, K., Yan, Z., Lin, H., Ichimaru, N., Kim, S. W., Ishii, M. and Ohtsuka, R. (2006) Overweight in urban schoolchildren assessed by body mass index and body fat mass in Dalian, China. *Journal of Physiological Anthropology*, 25: 41-48.

## 単行本                    **Books and Contributions to Book**

Ataka, Y. and Ohtsuka, R. (2006) Migration and fertility of a small island population in Manus: A long-term analysis of its sedentes and migrants. *In* Ulijaszek, S.J. (ed.) *Population, Reproduction and Fertility in Melanesia*. Berghahn Books, Oxford, pp. 90-109.

大塚柳太郎 (2006) 「人類の進化と多様性—そのダイナミズムと気候変化の影響—」野上道男 (編) 『環境理学—太陽から人まで—』、古今書院、193-218.

Yamauchi, T. (2007) Modernization, nutritional adaptability, and health in Papua New Guinean Highlanders and Solomon Islanders. *In* Ohtsuka, R. and Ulijaszek, S.J. (eds.), *Health Change in the Asia-Pacific Region*. Cambridge: Cambridge University Press. (in press)

Watanabe, C. (2005) Roles of selenium in function of the brain. *In* Lieberman, H., Kanarek, R., Prasad, C. (eds.), *Nutritional Neuroscience*. Boca Raton: CRC Press, pp.307-330.

渡辺知保、大谷—金子律子、田中美加 (2005) 「周生期におけるジエチルスチルベストロール曝露の行動影響」井上達、井口泰泉 (編) 『生態統御システムと内分泌攪乱』、シュプリンガー・フェアラー東京株式会社、181-188.

## 総説・資料・他                    **Reviews and Other Reports**

大塚柳太郎 (2005) 南アジアにおける地下水の砒素汚染と持続的な水供給. *環境科学*、18(2) : 69-70.

福山祥子 (2005) 首都近郊の村に居住するトンガ人の労働時間—タイムアロケーション調査による推定—. *生態人類学ニュースレター*、11 : 12-13.

梅崎昌裕 (2005) 食の多様性 (1) 人類史の視点. *臨床栄養*、106(2): 151.

梅崎昌裕 (2005) 食の多様性 (2) パプアニューギニア高地のサツマイモ食. *臨床栄養*、106(4): 431.

梅崎昌裕 (2005) 食の多様性 (3) 海南島リー族の雑草料理. *臨床栄養*、106(7): 867.

梅崎昌裕 (2005) 食の多様性 (4) パプアニューギニア焼畑農耕民の食事. *臨床栄養*、107(2): 143.

梅崎昌裕 (2005) 食の多様性 (5) パプアニューギニア都市移住者の食事. 臨床栄養、107(5): 567.

梅崎昌裕 (2005) 食の多様性 (6) 南太平洋の石蒸し料理. 臨床栄養、107(7): 815.

梅崎昌裕 (2005) 資源利用規範が変容する背景について—パプアニューギニアと海南島の事例—. 研究彙報 (自然資源の認知と加工研究)、8: 17-23.

Umezaki, M., Jiang, H., Liang, J. (2005) Learning the hard way: transformation of human-environment relationships in Wuzhishan region, Hainan, China: 1930s to present. *PLEC News and Views New Series*, 6: 6-11.

梅崎昌裕 (2006) 「記録」でよみがえる「記憶」—人類学における衛生画像の利用—. 歴博、134.

Yamauchi, T. (2005) Nutritional status and physical activity among East Asian urban school children. *Obesity reviews*, 6, suppl: 136.

山内太郎 (2005) 高齢者の理想的な身体活動量とフィットネス—健康長寿漁村の事例から考える—. わかりやすいデサントスポーツ科学、9: 5-6.

山内太郎、大西秀之 (2005) ラオス農村の農閑期における成人の栄養状態、時間利用、身体活動量. アジア・熱帯モンスーンにおける地域生態史の統合研究: 1945-2005、269-277.

山内太郎、佐藤弘明、川村協平 (2006) アフリカ熱帯林に居住するピグミー系狩猟採集民の栄養状態とフィットネス. 科学研究費補助金研究成果報告書 [15405016]、37-48.

Yamauchi, T., Onishi, H., Phonpadith, X., Monely, V. (2006) Resting energy expenditure and physical activity level of rice farmers in Lao PDR during the post-harvest season. *A Transdisciplinary Study on the Regional Eco-History in Tropical Monsoon Asia: 1945-2005*, 208-218.

## 学会発表      **Presentations in Scientific Meetings**

蒋宏偉、梅崎昌裕：中国海南島ポーレー村の人口変動とその要因—1956～2004年を対象にした経時的復元—。第71回日本民族衛生学会総会。2006、沖縄。

裴文珠：バングラデシュにおける無機ヒ素曝露の評価。韓国産業衛生学会。2005、韓国。

福山祥子：トンガ王国における肥満割合—IOTF データとの比較—。第17回日本成長学会。2006、東京。

福山祥子：トンガにおける肥満の個人差に関連する食行動。第47回日本熱帯医学会・第21回日本国際保健医療学会合同大会。2006、長崎。

Ichimaru, N., Yamauchi, T., Weng, C.C., Kim, S.N., Jaw, S.P., Kim, S.W., Ishii, M.: Obesity and physical fitness among urban school children in Korea and Taiwan. The 4th Asia-Oceania Conference on Obesity. 2007, Seoul (Korea).

石飛裕美、渡辺知保、水上知広、森弘毅：周生期低用量カドミウム及びメチマゾールの複合曝露がマウス新生仔に与える影響。第76回日本衛生学会。2006、山口。

Dewanti, L., Sekiyama, M., Sulistiawati, Yoshinaga, J., Ohtsuka, R. and Watanabe, C.: Blood lead level, iron level, and red blood cell production of male workers at public vehicle terminal in a city of Eastern Java-Indonesia during Ramadan fasting. The 13th International Congress on Occupational Health Services. 2005, Utsunomiya.

水上知広、石飛裕美、長谷川達也、森弘毅、渡辺知保：新生仔マウス臓器中微量元素に対するメチマゾールの周産期投与の影響。環境ホルモン学会第8回研究発表会。2005、東京。

水上知広：メチマゾールの周産期投与による新生仔マウス臓器中微量元素及びメタロチオネインへの影響。第8回MT-ノックアウトマウス研究会。2005、熊本。

Nakazaki, M., Shimmura, T., Aratani, T., Sekiyama, M., Watanabe, C.: Biological monitoring of organophosphorus pesticide exposure among children in rural communities of Western Java, Indonesia. 第11回アジア農村医学会議。2005、鬼怒川。

中崎美峰子、新村哲夫、関山牧子、渡辺知保：インドネシア 西ジャワ農村の学童と母親の尿中アルキルリン酸. 環境ホルモン学会第9回研究発表会. 2006、東京.

丹羽麻裕、吉永淳、渡辺知保、水本賀文：胎児期 PAHs 曝露による出生体重への影響. 環境ホルモン学会第9回研究発表会. 2006年、東京.

関山牧子、蔣宏偉、渡辺知保：インドネシア農村部における化学物質の導入と人々の認識. 第77回日本衛生学会総会. 2007、大阪.

清水華、石田貴文、大塚柳太郎：インドネシア東スンバにおけるマラリア抵抗性遺伝形質. 第60回日本人類学会大会. 2006、高知.

竹内昌平、中澤港、梅崎昌裕、渡辺知保：インフルエンザの流行に対する学級閉鎖の効果の数理モデルによる検証. 感染症理論疫学研究大会. 2006、東京.

Tanaka, M., Sekiyama, M., Shimmura, T., Nakazaki, M., Watanabe, C., Abdoellah, O., Akbar, I., Parikesit, Gunawan, B., Salim, H., Masaja, S., Benito, Tb.: Exposure to organophosphorus pesticides among children living in agricultural setting in Western Java, Indonesia. The 3rd Conference of International Council of Community Health and Nursing. 2005, Tokyo.

梅崎昌裕：海南島の2村落における生業の転換—政策、換金作物、観光開発の影響—. 平成19年度農業土木学会. 2006、宇都宮.

渡辺知保、石飛裕美、渡邊明仁、吉田稔、佐藤雅彦：周産期カドミウムあるいはメチル水銀曝露がメタロチオネイン I, II 遺伝子欠損マウスの行動に及ぼす影響. 第75回日本衛生学会総会. 2005、新潟.

Watanabe, C., Watanabe, A., Satoh, M., Yoshida, K., Mori, K., Ishitobi, H., Honda, A.: Behavioral alterations of C57BL and metallothionein knock-out mice perinatally exposed to low level of cadmium. Society of Toxicology 44th Annual Meeting. 2005, New Orleans (USA).

Watanabe, C. : Toxicological interaction between perinatal methylmercury exposure and selenoenzymes in mice. 8th International Conference on Mercury as a Global Pollutant. 2006, Madison (USA).

Watanabe C. (organizer): Symposium—Health risks in the environmental risk. Union of risk management in preventive medicine. Special Conference on Health Risk Management of Environment and Labour. 2006, Tokyo.

渡辺知保：周産期重金属曝露の次世代影響—個体レベルの評価とその問題点—. 第33回トキシコロジーシンポジウム学会学術年会. 2006、名古屋.

- 渡辺知保：ノックアウトマウスの行動学的評価とその問題点．第9回メタロチオネインノックアウトマウス研究会．2006、三沢．
- 渡辺知保：環境化学物質の高次神経系への影響—実験的視点とフィールド調査の視点—．薬理学会年会シンポジウム．2006、横浜．
- 渡辺知保：環境中化学物質の健康リスク—どこに線を引くか？—．第5回TIGS-AGSセミナー．2006、東京．
- Yamauchi, T.: Nutritional status and physical activity among East Asian urban school children. The 14th European Congress on Obesity. 2005, Athenes (Greece).
- Yamauchi, T.: Physical capacity, nutritional status and physical activity for East Asian school children. Invited lecture at Diponegoro University. 2005, Semarang (Indonesia).
- Yamauchi, T., Kim, S.N., Lu, Z., Ichimaru, N., Maekawa, R., Natsuhara, K., Ohtsuka, R., Zhou, H., Yokoyama, S., Yu, W., He, M., Kim, S.H., Ishii, M.: Age and gender differences in the physical activity patterns of urban school children in Korea and China, The 8th International Congress of Physiological Anthropology. 2006, Kamakura.
- Yamauchi, T., Mexitalia, M., Shimizu, H. and Soetadji, A: Physical activity in obese and non-obese school children in Central Java, Indonesia. The 10th International Congress on Obesity. 2006, Sydney (Australia).
- 山内太郎：「人間の安全保障」としての子ども未来可能性—アジアの環境問題と子ども—．総合地球環境学研究所平成18年度一般共同研究．2006、京都．
- 山内太郎、林耕次、佐藤弘明、川村協平：アフリカ熱帯雨林における「純粋」狩猟採集生活(3) 身体活動と消費エネルギー．第71回日本民族衛生学会総会．2006、那覇．
- 山内太郎：子どもの体格と発育は何を語るのか—ソロモン諸島3集団の比較—．第24回日本オセアニア学会研究大会．2007、清水．
- Yoshida, M., Watanabe, C., Horie, K., Satoh, M., Sawada, M., Shimada, A.: Neurobehavioral changes in metallothionein-null mice prenatally exposed to mercury vapor. Society of Toxicology 44th Annual Meeting. 2005, New Orleans (USA).

## 国際的な活動

## International Activities

### 国際研究プロジェクト **International Research Projects**

\*PI= Principal Investigator, CP=Counterpart

Arsenic Hazard and Sustainable Water Supply System in Asian Environment (1998-)  
Alliance for Global Sustainability Full Project.

Ohtsuka, R. (PI), Watanabe, Maharjan, Miyazaki, Sekiyama, Bae, Ishigaki, Kawata.

CP= Harvey, C. (MIT, USA), Hug, S. (ETH/EAWAG, Switzerland), Ahmed, S.K.A. (NIPSOM, Bangladesh), ENPHO (Nepal).

Nutritional Ecological Survey in Rural Indonesia (2000-), The Japan Society for the Promotion of Science Core University Program between the University of Tokyo and Bogor Agricultural University.

Ohtsuka, R. (PI), Sa'diyyah, Sekiyama, Roosita.

CP= Roosita, K. (Department of Community Nutrition and Family Resources Bogor Agricultural University, Indonesia).

*Shistosoma Japonicum* Infection in Hunnan province, China (2000-)

Ohtsuka, R. (PI), Zhou, Takeuchi.

CP= Li, Y.S. (Hunan Institute of Parasitic Diseases, China).

Genetic-ecological Studies for High Risk of Lifestyle-related Diseases in Oceanian Populations (2002-2005) Grant-in-Aid for Scientific Research.

Ohtsuka, R. (PI), Yamauchi, Natsuhara, Sekiyama, Shimizu, Furusawa, Fukuyama.

CP= Department of Health (Kingdom of Tonga), Faculty of Medicine (Diponegoro University, Indonesia), Department of Health (Solomon Islands).

Mitigation for Yellow Dust Hazard in East Asia (2002-2005), Alliance for Global Sustainability.

Ohtsuka, R. (PI), Takeuchi.

CP= Guo, Q. (Peking University, China), Kim, Y.S. and Hong, S.C. (Hanyang University, Korea).

Application of Remote Sensing to Human Ecological Studies for Land Use/Cover (2002-)

Ohtsuka, R. (PI), Umezaki, Pahari, Furusawa, Jiang.

CP= Institute of Nationality Studies of Hainan Province (China), National Museum (Solomon Islands).

An Ecological-anthropological Study of the Baka Hunter-gatherers in Cameroon (2003-2006) Grant-in-Aid for Scientific Research.

Sato, H. (PI, Hamamatsu University School of Medicine), Yamauchi.

CP= Ministry of Scientific Research of Cameroon (University of Yaounde, Cameroon).

Physical Capacity and Health for East Asian Schoolchildren (2003-2007) Grant-in-Aid for Scientific Research.

Ishii M. (PI, Fukuoka University of Education), Ohtsuka, Natsuhara, Yamauchi, Zhou.  
CP= Gangwon National University (Korea), Liaoning Normal University (China).

Health Development Study in Lao P.D.R. (2003-2008) Research Institute for Humanity and Nature Full-Research.

Akimichi T. (PI, Research Institute for Humanity and Nature), Yamauchi, Natsuhara, Takeuchi.

CP= National Institute of Public Health (Lao P.D.R.).

Environmental Health Survey for Children in Asia (2003-) Grant-in-Aid for Scientific Research.

Watanabe, C. (PI), Ohtsuka, Sekiyama, Tanaka, Dewanti.

CP= Abdollah, O., Gunawan, B. (Institute of Ecology, Padjadjaran University, Indonesia).

Environmentally Sound Rural Development in China (2003-) Grant-in-Aid for Scientific Research.

Umezaki, M. (PI), Jinag.

CP= Hainan Provincial Institute of Ethnology, Central University of Nationality, (China).

Desirable Body Size, Dietary Intake and Physical Activity for Human: From the Perspective of Human Evolution (2004-2006) Grant-in-Aid for Scientific Research.

Yamauchi, T. (PI), Shimizu.

CP= Department of Health (Solomon Islands).

Medical Ecology of Malaria and Lifestyle Change after the Ethnic Tension in the Northern Guadalcanal, Solomon Islands (2005-) Grant-in-Aid for Scientific Research.

Nakazawa, M. (PI, Gunma University), Yamauchi.

CP= Department of Health (Solomon Islands).

Demographic problems in Papua New Guinea Highland (2006-) Grant-in-Aid for Young Scientists.

Umezaki, M. (PI).

CP= Papua New Guinea Institute of Medical Research (Papua New Guinea).

Environmental Problems and Human Security for Children as Our Future: Asia-Pacific Children and the Environment (ACE) Project. (2006-) Research Institute for Humanity and Nature Incubation Study.

Yamauchi, T. (PI), Watanabe, Sekiyama.

CP= Padjadjaran University (Indonesia), Department of Health (Solomon Islands).

Impacts of Ethnic Conflict on People and Local Community, and Process for Reconstruction of Living Environment (2006-) Grant-in-Aid for Scientific Research.

Yamauchi, T. (PI).

CP= Department of Health (Solomon Islands).

Vulnerability and Resilience of Social-Ecological Systems (2006-) Research Institute for Humanity and Nature Pre-Research.

Umetsu, K. (PI, Research Institute for Humanity and Nature), Yamauchi.

CP= University of Zambia, Central Statistical Office (Zambia).

## 人類生態学セミナー **Seminars on Human Ecology**

Dr. Elizabeth Snow (Associate Professor, Centre for Cellular & Molecular Biology, Deakin University, Australia)

Arsenic: the dose makes the poison. Molecular toxicology and environmental exposures. 2005. 6. 23.

Prof. Daniel Dorling (Department of Human Geography, University of Sheffield, UK),

Dr. Dimitris Ballas (Department of Geography, University of Sheffield, UK)

Geographies of social inequality in health and well-being. 2006.5.19

Dr. Chunying Chen (Laboratory for Biological Effects of Nano Materials and Nano Safety, Institute of High Energy Physics National Center for Nano Science and Technology)

Mercury status in China and its impacts on human health. 2006.12.6.

Dr. Robin Hide (Visiting Fellow, Department of Anthropology and Resource Management in Asia-Pacific Program, Australian National University)

Magapodes in New Guinea cultures: material and mystical relations. Plants and people in New Guinea: a review of work in ethnobotany. 2007. 1. 13.

人類生態学研究会      **Meetings on Human Ecology**

**第 19 回 (2005 年 6 月 11 日)**

蔣 宏偉 (人類生態)

世帯構成、換金作物、労働時間及び食事：中国海南  
島リー族の事例

清水 華 (人類生態)

スンバ人の生態とマラリア

今井秀樹 (国立環境研究所)

ビスフェノール A の次世代への影響

河辺俊雄 (高崎経済大学)

マレーシアの学童に見られた中国系とマレー系の  
成長の差異—国際 Auxology (成長) 学会に参加し  
て—

**第 20 回 (2006 年 6 月 10 日)**

Linda Dewanti (人類生態)

Blood lead level, iron level and red blood cell  
production of male workers during Ramadan fasting in  
Indonesia

福山祥子 (人類生態)

トンガ人の食物摂取における個人内変動と個人間  
差

緑川泰史 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

大学相撲選手の器官・組織レベルからみた身体組成  
およびそれらを用いた安静時代代謝量の推定

門司和彦 (長崎大学熱帯感染症研究センター)

Establishing a demographic surveillance system in  
Lahanam, Lao P.D.R.

## 教室員一覧 Staff, Students and Visiting Researchers

名誉教授	鈴木継美	
	大塚柳太郎	
教授	渡辺知保	
助教授	2005.8-	梅崎昌裕
<b>非常勤講師</b>		
	坂井建雄	順天堂大学医学部
	佐々木誠一	茨城県立医療大学
	新田裕史	国立環境研究所
	姫野誠一郎	徳島文理大学薬学部
	本郷哲郎	山梨県環境科学研究所
	稲岡 司	佐賀大学農学部
	中澤 港	群馬大学大学院医学系研究科
	梅崎昌裕	-2005.7 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
	末吉秀二	吉備国際大学社会学部
	山越 言	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
<b>助手</b>		
	山内太郎	2002.4-2007.3
	清水 華	2005.5-
<b>特任助手</b>		
	蔣 宏偉	2006.6-
<b>学術研究支援員</b>		
	古澤拓郎	2005.5-2005.9
		2005.10-2006.3 サステイナビリティ学連携研究機構 特任研究員
		2006.4- 国際連携本部 ASNET 推進室特任講師
	裴文珠	2005.11-2006.3
<b>事務補佐員</b>		
	青柳珠海	2005.4-
	松本千恵	2006.7-
<b>大学院生</b>		
	石飛裕美	2003.8-2006.3 博士課程
	蔣 宏偉	2003.4-2006.3 博士課程
	周 歆	2003.4-2006.3 博士課程
	竹内昌平	2003.4-2006.3 博士課程
	福山祥子	2004.4-2007.3 博士課程

Linda Dewanti	2004.4-2006.3	修士課程
	2006.4-	博士課程
水上知広	2005.4-	修士課程
小原 崇	2005.4-2007.3	修士課程
Rajendra Prasad Parajuli		
	2005.4-2007.3	修士課程
新城梨奈子	2005.4-	修士課程
松本エミリールイズ明子		
	2006.4-	修士課程
柴田敏幸	2006.4-	修士課程

#### 大学院外国人研究生

Erica Takane 2006.4-2007.3

#### 客員研究員

A.B.M. Rafiqul Islam

2003.12-

周 勲 2006.4-2007.3

杉本記久恵 2006.4-

裴文珠 2006.4-2007.3

#### 招聘研究者

Katrin Roosita (Bogor Agricultural University, Indonesia)

2005.1-2005.2

2007.1-2007.2